

誰もひとりでは生きられない。

今こそ観てほしい  
4年ぶりの再上映!!

6/2土~15金

”私が受けとった  
『隣る人』の贈り物”  
連日トーク開催!

隣る人  
となりの  
never let me go.

親と暮らせない子どもたちと、隣り合う保育士たち。そして、子どもとふたたび暮らすことを願う親。  
ある児童養護施設の日常を追う8年間のドキュメンタリー。

刀川和也監督作品 企画：稲塚由美子 撮影：刀川和也・小野さやか・大澤一生 編集：辻井 潔 構成：大澤一生  
プロデューサー：野中章弘・大澤一生 製作・配給：アジアプレス・インターナショナル

山形国際ドキュメンタリー映画祭 ニュー・ドックス・ジャパン部門招待作品  
文部科学省選定(青年向き・成人向き) / 厚生労働省社会保障審議会 特別推薦  
第9回文化庁映画賞・文化記録映画部門大賞 / 第37回日本カトリック映画賞

「どんなムツちゃんも好き」。保育士のマリコさんの言葉です。そう思ってくれる人が隣にいること。子どもには、それだけでいいけれど「それだけ」が非常に困難になっているのは、今の日本、児童養護施設に限ったことではないように思います。愛情とは、何か特別なことをしてやったり、まして期待したりすることではない。

なんでもない時間を共有し、ひたすら存在を受けとめること。子どもとは、こんなにも愛情を必要としている生き物なんだと、せつなく、たじろぐほどでした。

## 俵万智 (歌人)

ささやかだけれど情感豊かなこの映画は、日常の暮らしの底で光を放つ「生命の真実」を、うるわしく、切なく写し出している。人が心の底から希求している本物の願い、折り、夢。そして人を真に悲しませるもの姿。さらに、人がどんなつらさにも耐えて、なお生きゆくことがなぜ可能なのか、胸迫るその答えもここにある。

いとおいしい子どもたち。いとおいしい人びと。観ながら涙し、観終えてこみ上げ、二度観てこれを書いている今も心が揺さぶられている。

## 天童荒太 (小説家)

「揺るぎない誰か」を求めるといことが、人にとっていかに根源的で切実な欲求であることが……すっかり二人で大きくなつた気である。すべての大人たちに観てほしい。

## ライムスター 宇多丸 (ラッパー / ラジオパーソナリティ)

「果たして、自分は我が子にとって、ほんとうに隣る人なのか？」究極の問いが突き刺さる。子どもと生きることは、キレイごとばかりじゃない。喜びも疎ましさも複雑にはらむのが、人とのコミュニケーションそのものだから、親として、人の子としてこの世に生まれた以上、誰もが知る感覚に違いない。ところが、そんな弱音を持って余す私のような大人の事情なんてそっちのけで、子どもは日々、進化し、いつ何時もそこにある陽だまりのようなぬくもりを必要とするのだ。

「光の子どもの家」の子どもたちの切実な想いは、かつて子どもだった自分の懐かしさと相まみれ、窒息するほど胸を締めつける。8年という日常に寄り添い、一切の誇張も、偏りもなく、これほどまでに静かに真実を見つめた映像が、未だかつて存在しただろうか。見る者の知と情に委ねられた、まっすぐな問いは永遠に消えない。

## 内田也哉子 (文筆 / 音楽活動 sighthoat)

# あなたは、誰かにとつての「隣る人」になれますか？

## 佐藤忠男 (映画評論家)

児童虐待などの暗いニュースの多い昨今だが、児童養護施設には子どもたちがこんなにも保育士たちを慕って心の安定を得ているところもあると知って、本当に嬉しい気持ちになる作品である。映画としても、人と人が、こんなに純粋に、愛をそそぎ、愛を受けとめる姿を、かくも豊かに、たっぴり撮影し得た作品はそうザラにはない。ドキュメンタリーの傑作だと思ふ。人間万歳！

## そこにいなければ撮れなかった——8年間におよぶ児童養護施設の日常愛を求める子どもたちと、それに隣る大人たち

地方のとある児童養護施設。ここでは様々な事情で親と一緒に暮らせない子どもたちが「親代わり」の保育士と生活を共にしている。マリコさんが担当しているのは、生意気かりのムツミと甘えん坊のマリナ。本来、親から無条件に与えられるはずの愛情だが、2人にとっては競って獲得しなければならない大事な栄養素。マリコさんを取り合ってケンカすることもしばしばだ。そんなある日、離れて暮らしていたムツミの母親が、ふたたび子どもと一緒に暮らしたいという思いを抱えて施設にやってくる。壊れた絆を取り戻そうと懸命に生きる人々の、平凡だけど大切な日々の暮らしは今日も続く。

「児童養護施設」とは児童福祉施設の一つで、全国に約580施設あり、総児童数は約3万人。親の離婚や病気、災害や事故、あるいは虐待を受けるなど、家族による養育が困難な2歳～18歳位までの子どもたちが生活している。施設の規模は様々だが、本作では小規模の児童養護施設「光の子どもの家」の生活に8年間密着した。監督は、フリージャーナリストとしてフィリピンやインドネシアの児童問題を取材し、本作が長編ドキュメンタリー映画初監督作品となる刀川和也。血のつながりのない大人と子どもが共に生き、信頼関係を築いていく現場に寄り添う濃密な映像は、施設の外で生きる私たちに対しても、人と人のつながりの意味を改めて問いかける。

- ★トークイベント連日開催!! (全て12:30の回上映後)
- 2土 三浦リサ (NPO法人 子育てパレット代表)
  - 3日 千野雅則 (NPO法人 スキルポート代表)
  - 4月 岡田光生 (福島アグリ・ウォッチャー・クラブ代表) 岡田規代 (原町おやこ劇場事務局長)
  - 5火 松下友子 (vo) & 古川奈都子 (pf) & 海付豊 (sax) ジャズライブあり
  - 6水 俵万智 (歌人)
  - 7木 小暮悦子 (認定NPO法人「まごの手」理事長)
  - 8金 千田真澄 (市川うららFM「はーもにーぶれいす」制作)
  - 9土 齊藤幸一 (開成学園教諭 / 日本化学会普及交流委員会委員長)
  - 10日 徳丸ゆき子 (NPO法人CPA理事長) 兼松徹 (事務局長)
  - 11月 船橋邦子 (NPO法人女性とこどものスペース・ニコ代表理事)
  - 12火 竹内みどり (ふぁみんべトナムプロジェクト代表) トルン演奏あり  
フォー・ティ・ラン (ベトナム児童養護施設「希望の村」出身者)
  - 13水 中村泰子 (We誌編集長)
  - 14木 中村八千代 (NPO法人ユニカセ・ジャパン理事長)
  - 15金 菅原哲男 (光の子どもの家理事長)
- 聞き手: 2～13, 15 = 稲塚由美子 (本作企画)、14, 15 = 刀川和也 (監督)

never let me go

## 全国7万人が涙した未DVD化の"体感映画" 4年ぶりのリバイバル上映!!

お年寄りだって若者だって子どもだって「誰もひとりでは生きられない」。今こそ観てほしい、貴重な再上映です。

6/2土 ~ 15金

料金: 一般1700円 大・専・シニア1200円 高・中・障1000円 小700円 未就学児無料  
★トークイベントのない20:40の回は一般1400円!

お子さま連れでもお気軽にお越しください。ベビールームやベビーカー置場などの特別な設備はございませんが、ご希望があれば劇場内を少し明るくしたままでの上映などにも対応いたします。ご希望、ご不明点など、劇場までお問い合わせください。

ポレポレ東中野

TEL 03 3371 0088  
www.mmjp.or.jp/pole2/